

SDGsの取り組み

 ホクシン株式会社

2024年5月1日

サステナビリティ基本方針

ホクシン株式会社は、

- 「環境配慮型事業として、限りある資源の有効利用を通じて、地球環境保全に”もっと”、”ずっと”、”うまく”貢献する」ことを使命とし、人と地球の未来を見据え、収益機会とリスクの両面から、経営上の重要課題(マテリアリティ)に取り組むことで、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献します。
- 温暖化ガスの排出削減を促進するため、専門の組織を設置し、現状把握及び、エネルギー関連設備の更新検討を含む対策の進捗確認を行い、その実効性を高めます。
- 事業を支えている従業員の健康・安全を企業成長の基盤と考え、労働環境の向上に努め多様性を重視した人材活躍推進に積極的に取り組みます。
- 法令、社会規範や倫理を守り、適正な企業統治の下、全てのステークホルダーとの相互信頼と良好な協力関係維持・向上により、社会の持続的な発展に貢献します。

Sustainability Vision 2030

木と向き合い、未来を拓く

達成の柱 ①

～事業活動を通じた環境貢献の最大化～

環境
Environment

木材(木質資源)利用を通じた地球環境への貢献活動の推進

7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	12 つくる責任 つかう責任
13 気候変動に 具体的な対策を	15 陸の豊かさも 守ろう

達成の柱 ②

～技術力を活かした社会への提供価値の最大化～

技術
Innovation

MDFの新たな価値・可能性を
広げる製造技術革新への取り組み

9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	17 パートナーシップで 目標を達成しよう
-----------------------	--------------------------

達成の柱 ③

～ホクシンとつながるひとへの提供価値最大化～

人材
Human Resource

持続可能なものづくりを支える
ひとづくり

3 すべての人に 健康と福祉を	5 ジェンダー平等を 実現しよう
4 質の高い教育を みんなに	8 働きがいも 経済成長も

当社のSDGsの取り組み

	取り組み内容	実績(2022年度)	目標(2030年度)	推進体制
環境	■木材チップの利用<樹種・産地・植林木>	国内調達針葉樹・植林木の使用割合 15%	60%	H-CHALLENGE 2025
	■木粉・端材のマテリアル利用	マテリアル利用量 285ton	1,000ton	
	■GHG削減に貢献する木質資源の利用推進	関連製品生産量 100m³	3,000m³	
	■配送効率の改善	製品出荷時の積載率 94.3%	積載率95.0%を維持しながら、倉庫集約による積み合わせ回数削減などドライバーの確保・安定供給につながる配送を確立させる	
技術	■構造用途の開発推進	木質材料の普及※ 12,000棟分	18,800棟分	H-CHALLENGE 2025・非住宅PJ
	■フロア用途性能向上への挑戦	木質材料の普及※ 11,300棟分	11,700棟分	H-CHALLENGE 2025・フロアPJ
	■再資源化商品の開発	量産体制の確立 実験・試作	販売数量 8,500m³	H-CHALLENGE 2025
	■オープンイノベーションへの取り組み	自社情報の社外発信 0件	20件	H-CHALLENGE 2025
人材	■安心して安全な職場環境づくり	有給取得率 56% 健康診断2次健診受診率 60%	有給取得率 80% 健康診断2次健診受診率 70%	H-CHALLENGE 2025・ひとづくりWG
	■多様な働き方への対応推進	採用した労働者に占める女性労働者の割合 44% 労働者に占める女性労働者の割合 8.6%	採用した労働者に占める女性労働者の割合 50% 労働者に占める女性労働者の割合 20%	
	■未来を担う人づくり	社内提案制度の応募件数 282件 教育支援の支出金 399万円	社内提案制度の応募件数 500件 教育支援の支出金 600万円	
	■製造部DX推進による省力化・生産性の向上	現場作業に課題のある案件を実施 ■主要の基幹ネットワーク ■エリアネットワーク設置	年度ごとに現場作業において困っていること、労力がかかっていることを吸い上げながら改善に取り組む	
	■DX推進～業務効率化～	業務効率化システム導入 0件	会計システム、購買システム、配送案件システム、人事給与システム、品質管理システム 更新・導入完了	

温室効果ガス(WG)にて組織算定(Scope 1・2・3)のCO2排出量の発信および削減目標管理を行う

※数値は年間実績及び目標値

木材(木質資源)利用を通じた地球環境への貢献活動の推進

【事業活動を通じた環境貢献の最大化】MDFは製材端材の有効利用から生まれた製品です。様々な未利用材や環境負荷の大きい原材料の活用に挑戦することで、メーカーとしての「作る責任」を迫り、安定供給を高める活動に努めています。

取り組み内容

環境

■木材チップの利用<樹種・産地・植林木>

持続的な木質利用を実現するために、あらゆる樹種の木質チップを混合使用する技術を強みとして、環境性と経済性を考慮した購買および生産を行います。

<購買> 2030年を見据えた環境意識から顧客要望の高まっているリサイクル材・国産針葉樹の利用率を向上させ、海外輸入材においては植林木にシフトしてまいります。

<生産> 高含水率である植林木の利用を見据え、水分除去装置の導入を計画しています。これによりMDF生産におけるエネルギー使用量の削減にもつながります。



■木粉・端材のマテリアル利用

MDF製造時に発生したサンダーダストおよびお客様から回収したカット端材をMDF生産に再利用しています。お客様から回収した端材は構内の破砕機にて粉碎され、原料チップの代替として活用しております。製品品質に影響がないことを確認しながら、従来は焼却処分されていた未利用材を活用しています。今後更にマテリアル利用率を高めていく計画です。



技術

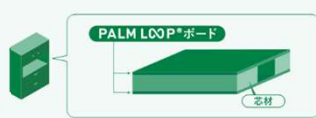
■GHG削減に貢献する木質資源の利用推進

ホクシンでは過去に竹チップやコーヒー豆のかすなど様々な未利用材活用の検討を実施してきました。2021年からはパナソニックハウジングソリューションズ株式会社と連携してアブラヤシ由来のペレットを活用したボード「PALM LOOP」の製造を行っております。アブラヤシを放置することで発生するメタンガスはCO₂(二酸化炭素)のおよそ25倍もの温室効果があるといわれており、ボード1㎡あたり温室効果ガス削減量1.33tに貢献します。ペレットの活用はMDF生産における繊維化および乾燥エネルギー使用量の削減にも貢献します。

※ CO₂削減量 3990t/年 : 1.33t/m³ * 3000m³/年(2030年目標)

56kg-CO₂の温室効果ガス削減に貢献できます

500mlペットボトル5.6万本分の体積と同じ



<https://panasonic.co.jp/phs/technology/palmloop/product/>

人材

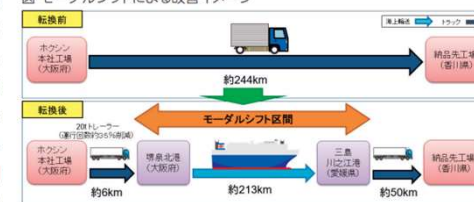
■配送効率の改善

環境負荷低減および物流2024年問題を見据えて積載率の向上や集荷の効率化について積極的な情報収集と準備を進めてまいりました。2021年にはトラック等の自動車で行われている貨物輸送を環境負荷の小さい鉄道や船舶の利用へと転換するモーダルシフト等推進事業の認定案件も取得しております。

～海上輸送モーダルシフトの推進～「国土省の令和3年度モーダルシフト等推進事業補助対象事業者として認定されました」

2019年より参加しているホワイト物流推進運動の活動として、RORO船(※)による香川県へのモーダルシフトを実施しました。堺泉北港から三島川之江港の区間を海上輸送に切り替え、環境負荷の低減と輸送の効率化を図っています。トラック輸送のみの場合と比べてCO₂排出量を14.3t-CO₂削減することに加え、トラックドライバーの運転時間も年間577時間削減する等、近年問題視されている物流業界の人材不足への貢献にも繋がっております。

図 モーダルシフトによる改善イメージ



※ RORO船とは貨物を積んだトラックや荷台ごと輸送する船舶のことです。

令和3年度 モーダルシフト等推進事業 認定案件一覧
<https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001418899.pdf>

【技術力を活かした社会への提供価値最大化】MDFの国内パイオニアメーカーとして炭素貯蔵に貢献する木質材料の社会普及と機能性の追求を図る一方で製造工程を活かした木質以外の未利用材を活用した量産技術確立により循環経済へ対応しています。

取り組み内容

環境

■構造用途の開発推進

リサイクル材・未利用材を利用した、厚床/野地/胴縁/薄物耐力壁の開発および営業提案を行っております。

<木質材料としてのMDFを活用する>

MDFの原材料である樹木は大気からCO2を吸収し炭素として貯蔵しているため、住宅部材として長期的に活用することで気候変動の緩和に貢献する「炭素貯蔵効果」があります。解体材や廃材を繰り返し利用する木質ボードは炭素貯蔵期間をさらに延長する機能を持ち、この期間で森林が成長することでCO2削減に役立ちます。

<マテリアル代替効果>

木質材料であるMDFの利用により、炭素貯蔵を拡大することで、住宅のみならず木質使用率の低い非住宅への展開を行ってまいります。

<住宅の安全性向上>

積層MDFの開発により高い耐震性を実現し、「住み続けられる街づくり」貢献します。

※引用：繊維板工業会発行
「木質ボード炭素貯蔵パンフレット」
https://jfpma.jp/docs/product/sdgs_leaflet_02.pdf



スターウッド厚床



実大試験の様子

技術

■フロア用途性能向上への挑戦

住宅内装建材の中でもフロア建材は多様な機能を付与することが多く、フロア下地に活用いただいているMDFにも機能性が求められることが多いです。最終ユーザーのニーズを見据えた当社顧客とのパートナーシップとソリューション営業により、最適なMDF開発に取り組めます。

【取組み具体例紹介】

- ・リサイクル材を利用したエコフロア用MDF
- ・今後のリフォーム需要に対応した重ね貼りフロア用MDF
- ・針葉樹・植林木を原材料とした単層MDFフロア



人材

■再資源化商品の開発

ホクシンで従来開発してきた未活用廃材としては木材以外の活用は竹・ケナフなどの木質材料やコーヒーかす・茶殻などの食物残渣がありましたが、2021年より、深刻化している衣料品ロスの社会的背景を受け、廃棄衣類を用いたボード開発にも取り組んでいます。廃棄衣類をはじめとした課題解決は環境省でも「サステナブルファッション」として企業の取り組みを後押ししております。繊維業界では再生がしやすい素材開発や回収スキームを構築している一方で、衣類繊維はその成分混合割合の種類が膨大で再生に適した仕分け作業が困難であることから、マテリアル利用として扱いにくい材料です。ホクシンでは、MDFの製造技術を活かし、マテリアル利用が困難である繊維の受け皿として廃棄繊維のボード化と衣類繊維の特性を生かした付加価値商品の開発（アップサイクル）に取り組んでおります。

【具体例紹介】PANECO boardの量産試作

<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000132.000063342.html>

■オープンバージョンへの取り組み

展示会への参加・地域コミュニティへの参加(工場見学の受け入れ等)を通じて当社の技術を社外に公開する活動を行っています。同内容はホクシンメディアにて積極的に発信し、当社を知っていただく場としていきます。これらの活動を通して、地域・異業種・業界での連携を図り、オープンバージョンへの基盤といたします。

【具体例】<泉州オープンファクトリーへの参画・協力>

2022年より工場の一般開放や体験提供に取り組んでいます。

泉州オープンファクトリーでは工場見学実施にとどまらず参画する企業同士の情報交換や共同の取り組みも実施されています。



・泉州オープンファクトリー：<https://senshu-of.com/>

・地域一体型オープンファクトリー

<https://www.kansai.meti.go.jp/1-9chushoresearch/openfactory/openfactory.html>

【ホクシンとつながるひとへの提供価値最大化】全国的に深刻化する労働者問題に焦点を当て、ホクシンでは健康支援から労働効率まで多面的に対応することで人的資本の持続と最大化に取り組みます。経済・環境変化の激しい状況に耐えることができる持久力のある組織を目指しています。

取り組み内容

環境

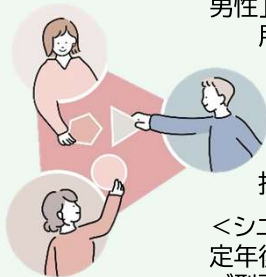
技術

人材

制度・組織文化

■安心で安全な職場環境づくり

社員の安全と健康の確保を行います。
<現場作業の区分および分担>
現場労働を伴う製造業では自動化しきれない作業があります。ホクシンでは2022年に現場作業に精通した社員を選定した製造業務支援課を設置しました。同部署においては、若手教育とメンテナンス支援に特化することで、現場作業者の業務負担軽減に取り組んでおります。現場作業の過度な属人化を抑制し、働きやすい職場環境を築きます。



■未来を担う人づくり

人材育成方針に基づき「未来を担う人材」へと成長。
<社内提案制度の拡大>
現場改善文化と表彰制度の整った環境を活かし、本社だけでなく営業も含めた全社的な活動にいたします。過去の改善事例として、社員独自の改良視点で現場の安全性を大幅に確保された歩廊点検場を製作することができ、工場見学に来たお客様も安全に作業場を見学していただくことができております。

■多様な働き方への対応推進

多様な社員が働く職場環境にするため、人事制度の柔軟な変更・採用に取り組みます。
<女性活躍推進>
ホクシンでは性別による採用差はありませんが、特に「現場作業＝男性」の固定観念を取り払い、採用人材に関しては女性動労者の割合を高めるよう進めています。これにより労働者確保はもちろん多様性を重視した活動を推進してまいります。

<シニアの活躍支援>
定年後再雇用制度におけるジョブ型雇用の整備を進めております。これにより適材適所かつ働き甲斐のある職場づくりを目指します。

設備・インフラ・システム

■製造部DX推進による省力化・生産性の向上

製造現場における点検作業を自動化し、本業に取り組みたいという現場スタッフの当事者意識の高まりを起点に、2022年から「製造部DX推進」として改善活動が進んでおります。

点検作業を自動化していくデジタル化にとどまらず、点検した画像情報を製品品質や製造状況にフィードバック・分析することでトラブル発生の原因見極めと製造フローの見直し(デジタルライゼーション)を行い、デジタルトランスフォーメーション(DX)へ押し進めます。



■DX推進～業務効率化～

バックオフィス業務から品質管理・配送業務まで製造を支えている間接業務の全社的なDXを進めます。

<バックオフィス/製造インフラ>
IT基板効率化(会計システム、モバイルデバイス管理、購買システム)による社内における業務負担軽減

<製造管理システム再構築>
品質管理システムの導入による製造品質の向上

<2024年・2030年問題>
出荷予約システムの導入に取り組むことで待機時間の削減を行います。